

1 私たちの「いじめ・暴力追放」憲章

㊗み㊗あふれる㊗さき小

・広げようありがとうの輪 ・みんなでふやそうほめ言葉 ・声かけあって救いの手

2 憲章をつくるまでの取り組みと内容

児童会運営委員で、「いじめ・暴力追放」に向け、どのような方法で取り組んでいくかを話し合い、児童会で憲章を作成することにした。話し合いでは、全校生が覚えやすく、否定的ではなく肯定的な内容の憲章を作成していくという意見にまとまった。全校生の言葉や思いが反映された憲章にするため、全校児童を対象とした「友達アンケート」を作成し、実施した。アンケートは、自分が他人から受けたくない言葉や行動を振り返ると共に、肯定的な言葉や意見が集約できる内容のものとした。

【尾崎小学校児童会 友達アンケート質問項目】

- ①友達に言われて、うれしい言葉は何ですか。
- ②友達に言われて、嫌な言葉は何ですか。
- ③友達がしてくれて、うれしいことは何ですか。
- ④友達にされて、嫌なことは何ですか。
- ⑤今、困っていることはありますか。

「友達に言われてうれしい言葉」「友達にしてもらってうれしいこと」に着目して集約すると、以下のような回答があった。

【アンケート結果】

①うれしい言葉

- ・ありがとう
- ・大丈夫
- ・一緒に遊ぼう
- ・ドンマイ
- ・頑張ろうね
- ・手伝おうか
- ・すごいね
- ・上手だね

③うれしい行動

- ・勉強が分からないときに教えてくれる。
- ・困っているときに助けてくれる。
- ・一人でいるとき、一緒に遊んでくれる。
- ・体調が悪いときに声をかけてくれて、保健室まで付き添ってくれる。
- ・自分が頑張っているときに、応援してくれる。

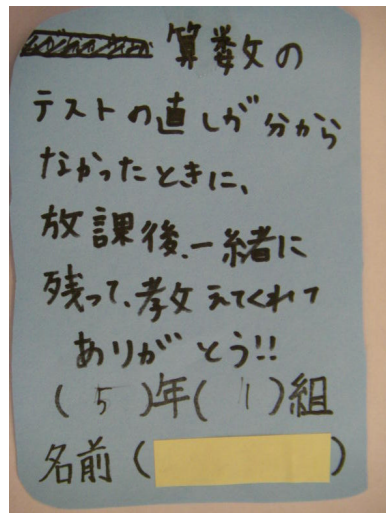
アンケートの集約をするなかで、「友達に言われてうれしい言葉」や「友達にもらってうれしいこと」があふれる学校にしたいという願いを強く持った。クラスや学年の枠を越えてみんなが仲良くなり、このような言葉や行動があふれる学校になれば、笑顔（えみ）があふれる学校になり、必ずいじめや暴力を追放できると信じ、憲章『㊗み㊗あふれる㊗さき小』（合い言葉は㊗㊗㊗）を制定することとした。

3 自分たちの活動するために（平成 24 年度の取り組み）

代表委員会において、憲章制定を伝え、アンケート結果も公開した。アンケート結果にあった「うれしい言葉・うれしい行動」を全体で確認し、「㊦み㊧あふれる㊨さき小」にしていきたいという運営委員会の思いを伝えた。その後、全校生に向け、憲章について全校で取り組んでいくことを宣言した。その第一歩として、友達に言われてうれしい言葉で一番多かった「ありがとう」を全校生に広げていくことから始めることにし、「ありがとうお届け板」の活動を代表委員会に提案した。

「ありがとうお届け板」【活動内容】

- ① ありがとうの気持ちを直接相手に伝えると共に、「ありがとうお届け板」にも掲示する。
- ② うれしかった言葉やうれしかった行動を掲示することで、望ましい言動を具体的に示す。
- ③ 毎日お昼の放送で、掲示されている内容を紹介し、学校全体に広めていく。
- ④ ありがとうの輪を広げ、積極的に声かけや救いの手を差し伸べることができるようにする。



当初は「〇〇さんがトイレのスリッパを並べてくれたよ。ありがとう。」「〇〇くんが落とし物を拾ってくれてうれしかったよ。」というような簡単な内容のものが多かった。毎日、運営委員が紹介していくことで、学校全体に活動が浸透し、活発化していった。「勉強が分からなかったときに〇〇さんが教えてくれたよ。ありがとう。」「困っているときに〇〇さんが、助けてくれてうれしかったよ。」などという掲示も増え、活動内容に広がりが見られるようになった。

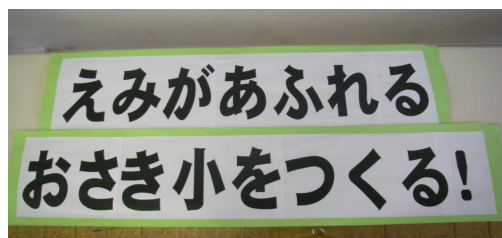


4 自分たちの気持ちをつないでいくために （平成 25 年度の取り組み）

(1) ㊦み㊧あふれる㊨さき小をつくる！

憲章を児童会の活動目標に掲げると共に 6 年生の学年目標とした。4 月、学校のリーダーとして「㊦み㊧あふれる㊨さき小をつくる！」ためにどんなことをしたいかを 6 年児童全員で考えた。あいさつ、困っている人への声かけ、言葉遣い、思いやり、やる気、協力、責任ある行動など次々と意見が出た。それらの行動をこれから 1 年間毎日積み上げていき、一人一人が「㊦み㊧あふれる㊨

さき小をつくってきた」という自信をもって卒業したいと願い、本読み表に記録を残していくことにした。「1 年生が困っていたので声をかけた」「クラブ活動が初めての 4 年生に優しく説明した」など思いやりある行動も増えてきた。



31日 (金)	30日 (木)	29日 (水)	28日 (火)	27日 (月)	24日 (金)
がはりやすうにしたい	員会外あるよと伝えた	いはい運んだ。	進んでなうべた。	すみまをすみからう	司学級会で大きな声で

(2) スマイルウォークラリー

スマイル班（縦割り班）による春の交流遠足を行い、楽しくゲームをする中に、「えがおのうた」を歌ったり、ウォークラリーのゴールで班ごとに大きな声で憲章を校長先生に宣言したりする活動を組み込んでいった。

【えがおのうた】

～幸せなら手をたたこうの替え歌～

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 幸せなら1年生（バンザイ） | 幸せなら2年生（頑張るぞ） |
| 幸せなら態度でしめそうよ | ほらみんなで手をたたこう |
| ② 楽しいなら3年生（ゴーゴー） | 楽しいなら4年生（フォーゲッツ） |
| 楽しいなら態度でしめそうよ | ほらみんなで手をたたこう |
| ③ うれしいなら5年生（ピア～） | うれしいなら6年生（今でしょ） |
| うれしいなら態度でしめそうよ | ほらみんなで手をたたこう |
| ④ 仲良しなら手をたたこう | 仲良しならジャンプしよう |
| 仲良しなら態度でしめそうよ | ほらみんなで手をたたこう |

【おんぶ帽子とり】



【宣言】 わたしたち〇班は

⑤み④あふれる③さき小を
つくることを誓います！

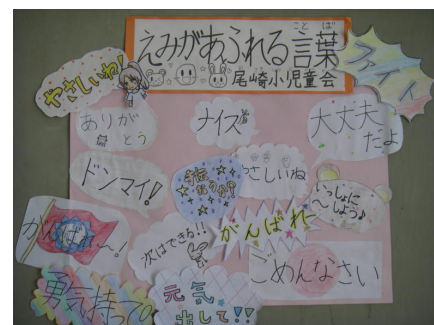
(3) 友達100人あいさつ運動

朝学校に来たら、いろんな学年の人とあいさつとハイタッチをして友達を増やしていく。1週間で友達100人、3週間で友達300人達成を目指す。友達100人とあいさつできると、リボンをもらい名札の下に付けていく。あいさつは友達づくりの第一歩と考えた取り組みである。毎朝、玄関や廊下で元気よくあいさつやハイタッチをする姿が多く見られた。



(4) えみがあふれる言葉（代表委員会 提案理由より）

尾崎小学校の子どもたち465名が毎日笑顔で過ごす、そんな学校づくりを私たち運営委員がつくっていったらいいなと思っている。そこで、毎日の生活や会話の中に素敵な言葉が隠れているのでは？と考えた。感謝の言葉「ありがとう」心のこもった言葉「○○でありがとう」「素敵だね」励ましの言葉「がんばれ」「すごいね」など。こんなふうに相手にうれしい気持ちを伝えることで、相手の心もうれしくなる。つまり、えみがあふれる。尾崎小が笑顔になる。そんなふうになればいいなと思った。各クラスで「えみがあふれる言葉」を考えて教室に掲示し、みんなでこの言葉を使っていこう。



(5) えみがあふれる顔パズル

各自担当の顔パーツを5人分作っておきます。

1年(目) 2年(眉毛) 3年(口)

4年(鼻) 5年(耳) 6年(髪の毛)

休み時間に違う学年の教室に行って、自分から声をかけ、顔パーツを交換していく。顔の輪郭が描かれたプリントに集めた顔パーツを貼り、顔パズルを完成させる。

廊下でなかなか声をかけられずにいる低学年児童に「何と交換したいの?」と聞いてくれる高学年児童、不安げな1年生が心配で「一緒に行こう。」と他教室まで付いていってくれる6年生。勇気を出して自分から声をかける姿とお互いを気遣う優しさがほほえましかった。



(6) スマイルをさがせ!

1学期間仲良くなったスマイル班で、宝さがしをしてもっと仲を深めよう。6年生は、班の人数分のスマイルマークを作り、スマイル班の教室で隠す。1～5年生は、スマイルをさがし、胸に付けて帰る。

【W スマイル】

～6年児童の作文～

「スマイルをさがせをはじめま〜す。」
そう言ったら、1・2年がダーッと走って入って来た。

「あ、こんなところに。」

「やったあ、見付けた〜。」

「え〜っ、わからへん。」

みんないろんなことを言っていたけど、見付けたときは、とてもうれしそうだった。

「3・4年生、どうぞ。」

わかりやすいスマイルは、1・2年生が取ってしまっていたので、

「え〜ない…。あつた。」

「こんなところに…。」

という声が多かったけど

「このスマイルおもしろ。」

とかいう声もあって、喜んでくれていてよかったと、正直ほっとした。

「次、5年生入って〜。」

今度はぞろぞろと入って来た。

「ああ、あつた。」

「うわあ、高〜。取れるかなあ。」

さすがに高学年になると冷静になっていたけれど、探して見付けたときは、とてもおもしろそうで、笑っていた。

どの学年も笑顔(スマイル)になっていた。私たちが作ったスマイルとみんなの笑顔(スマイル)があって、スマイルが2倍になっていたように思えた。



5 私たちの決意 ～6年児童の作文～

いじめ・暴力は絶対にしたくないし、されたくもありません。私はいつもそういうことが起きないように心がけています。人の悪いところばかり見付けずにいい所を探したり、人にいやなことをしてしまったらすぐに謝ったりしています。「いじめ・暴力」という言葉はきらいなので、自分もみんなもこのような行動をしないことが私の願いです。

いじめを見て見ぬふりもしません。もしもいじめがあったら、いじめられている人を助けられるような勇気を持ち、その人を助けるためにみんなで協力したいです。「だめだよ」とか「やめなよ」と止めて、いじめられている子には「大丈夫」と声をかけていきたいです。

私たちは、**えみ**が**あふれる****お**さき小学校をつくるために、いろいろな活動をしてきました。全校生が仲良くふれ合い、交流の楽しさを知っていくと、学校に**えみ**があふれます。**えみ**があふれ続けるといじめ・暴力もなくなると思うので努力して頑張っていきます。優しい心や思いやりのある人が増えることを期待し、今後も全校生がより深くかわり合える活動を進めていき、私たち6年生全員が学校のリーダーとなり、尾崎小465名全員の力で**えみ**が**あふれる****お**さき小をつくっていきます。

6 市民のみなさんへ ～6年児童の作文～

私のお母さんは、「ただいま」の声で、今日私に何が起こったのかがよく分かり「どうしたん。何かあったん。」と言ってくれます。子どもが悲しそうな顔をしていたり、元気がないときはすぐに「大丈夫。何かあったの。」と話しかけて、子どものSOSを読み取ってください。子どもが自分で大人に伝えるのには、勇気がいります。できれば、大人の方から私たち子どもに声をかけてほしいのです。

いじめ・暴力をされている方は絶対にいやな気持ちだと思うけれど、いじめ・暴力をしている方も何らかの事情があると思います。いじめている人はいじめをしていることに気付いていないかもしれないし、いじめられている人がとても傷ついていることを分かっていないかもしれません。もし私たちがそんなことをしていたら、厳しく注意してほしいのです。「気付かなかった」＝「気付こうとしなかった」ということにならないよう、周りの大人も様子をよく見ておいて、先生に言うとか声をかけるとかしてください。

いじめは子どもだけでは解決できないかもしれないので、先生やお家の人、市民の方々に見守っていただき、解決に向け考えていきたいと思います。みんなで協力すれば解決できないいじめはないと思います。みなさんも、笑顔があふれる町にするために、私たちと共に、いじめ・暴力をなくす取り組みにご協力をお願いします。

